

平成27年度
決算特集号



平成27年度決算が9月議会で認定されました。

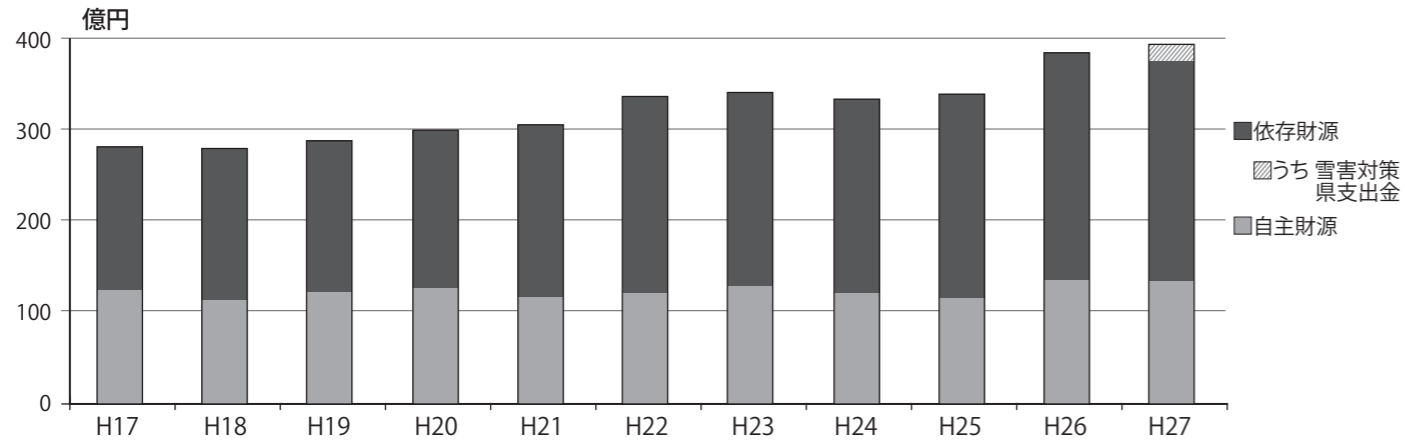
一般会計の決算を中心に、笛吹市の決算の概要を紹介します。

CONTENTS(内容)

決算の概要	2~5
市の基金(貯金)と市債(借金)	6
財政健全化判断比率など	7
平成27年度の主な事業	8

一般会計 自主財源・依存財源の推移

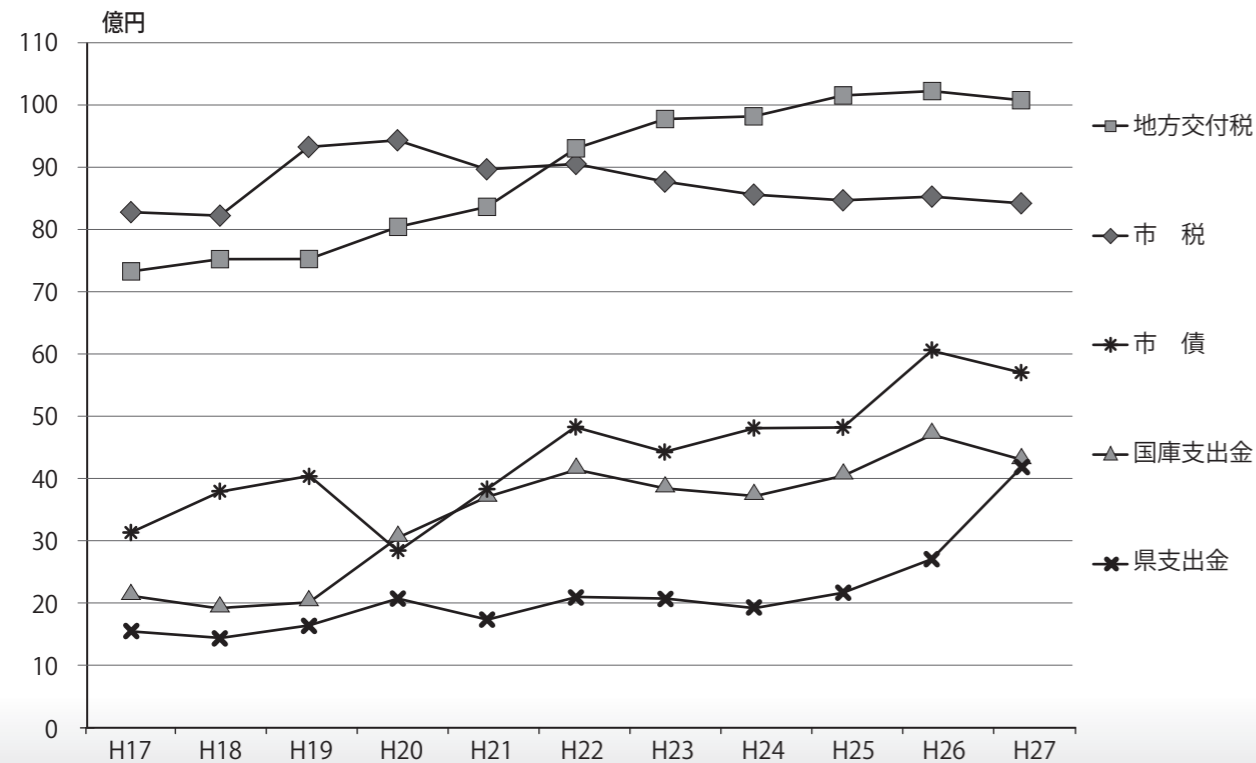
合併からの推移を見ると、自主財源は横ばい、依存財源は増加傾向にあることが、下のグラフから分かります。ただし、平成27年度については、災害対応としての臨時収入である雪害対策県支出金を除くと、依存財源は前年度より減少したことになります。



一般会計 主な歳入科目の決算額推移

建設事業費がピークを過ぎたことにより、それに伴った国庫支出金や市債といった依存財源は減少傾向に転じました。なお、県支出金については、一昨年2月の記録的大雪による倒壊ハウスなど再建のための補助金により、大きく増加となりました。

一方、自主財源の根幹である市税については、個人所得額の上昇により個人市民税は増加したものの、税率改正により法人市民税は減少となり、市税全体としては減少に転じました。市民の負担における公平性と財源確保の観点から、滞納繰越分などの未収債権を中心に、さらなる回収整理の取り組みを進めていかなければなりません。

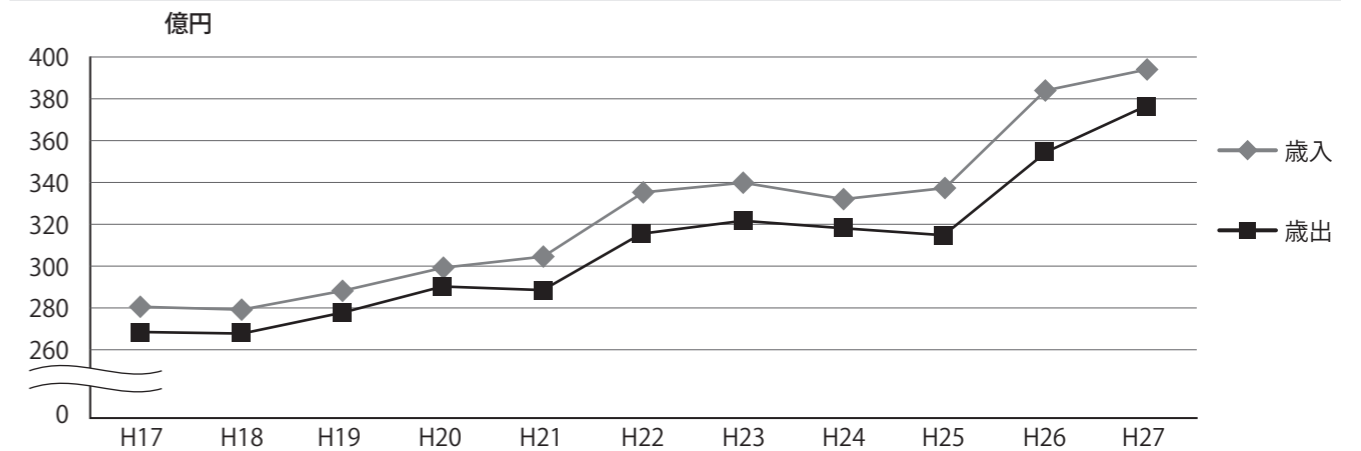


平成27年度 決算概要

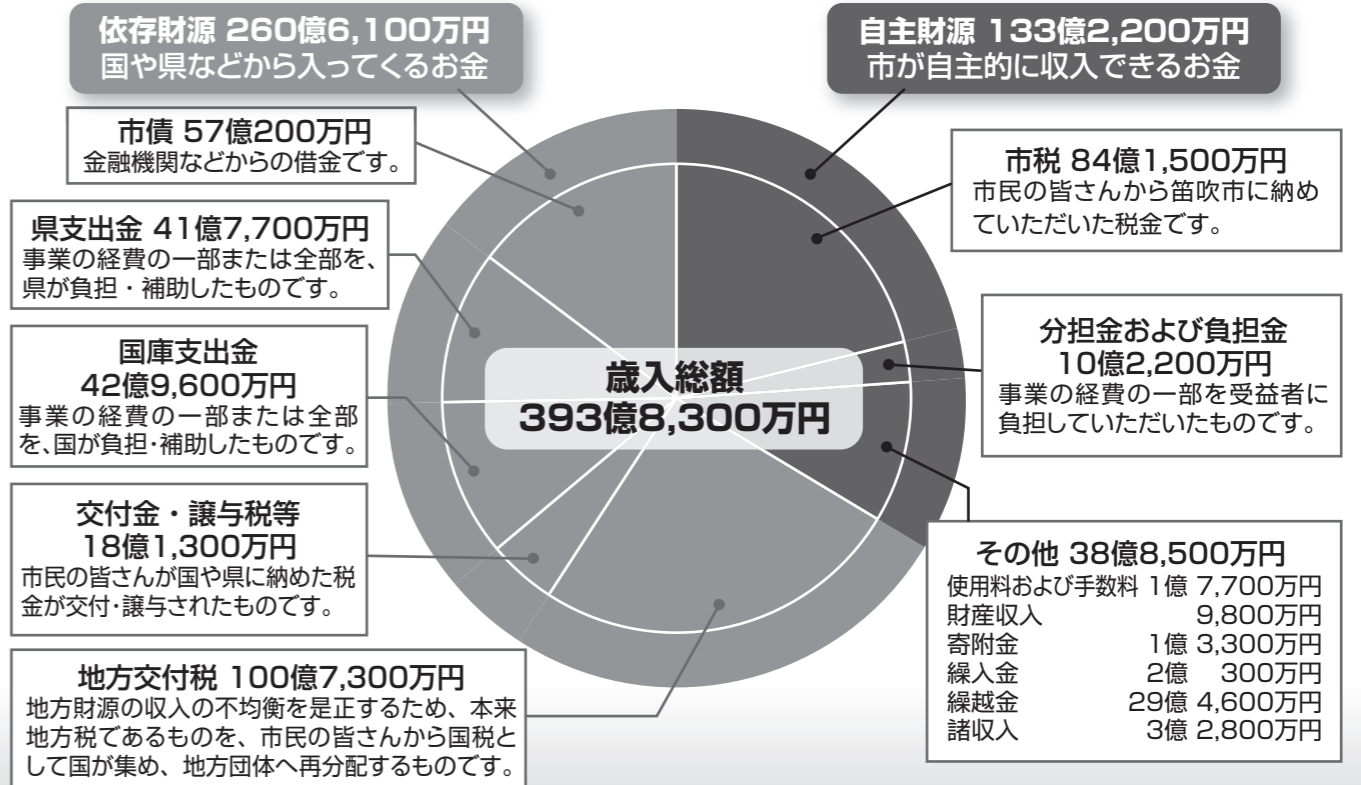
平成27年度決算が、9月議会で審議され、認定されました。ここでは、市民の皆さんが納めた税金がどのように使われ、また、市の財政が今どのような状況にあるのかをお知らせします。

一般会計 歳入・歳出の決算規模

平成27年度一般会計決算は、歳入総額が393億8,300万円、歳出総額が376億5,500万円でした。市債を活用して積極的に行ってきた市の基盤整備事業はピークを過ぎましたが、記録的大雪被害による雪害対策補助金、甲府・峡東地域ごみ処理施設建設負担金といった補助費の増額により、合併後最大の決算規模となりました。

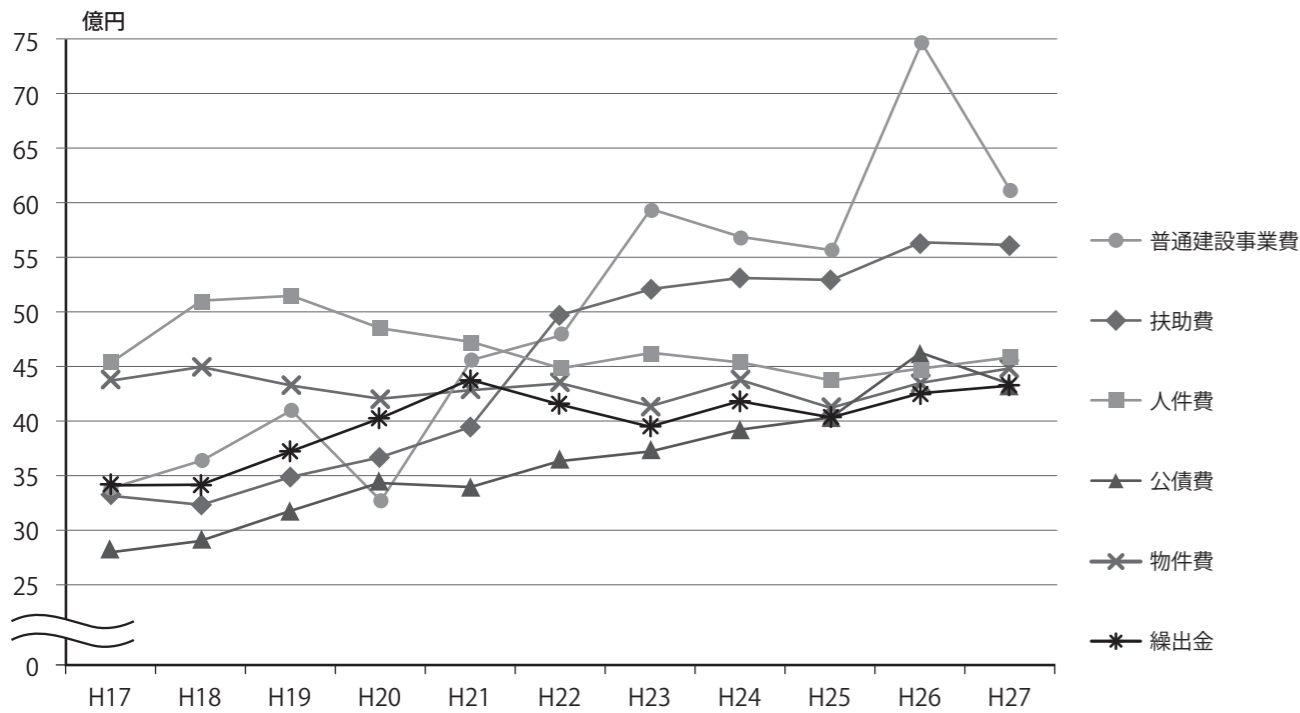


一般会計 歳入の内容



一般会計 性質別歳出額の推移

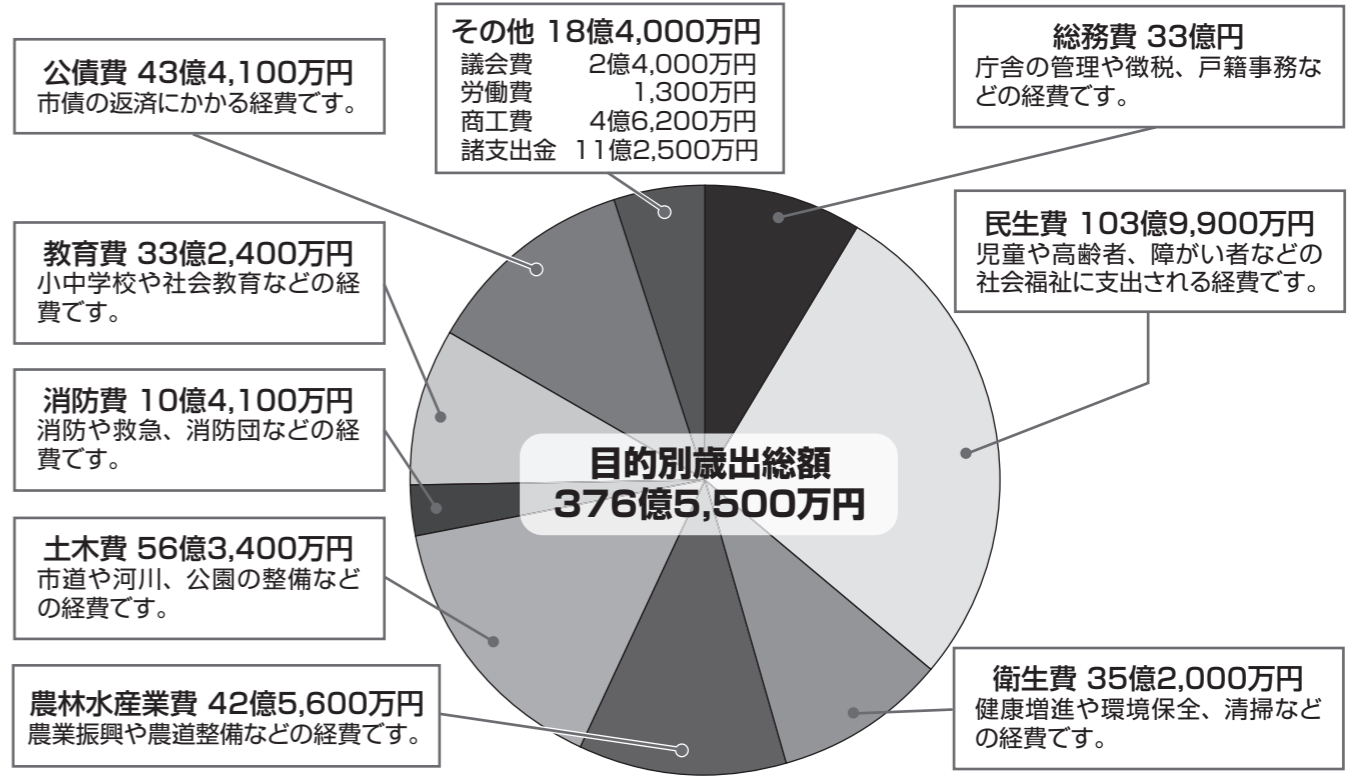
道路や水路、公共施設などの整備にかかる経費である普通建設事業費と、子どもや高齢者、障がい者などを支援するための費用である扶助費が、歳出の中で高い割合を占めています。普通建設事業費においては、基盤整備を目的とした建設事業がピークを過ぎたことにより、今後は減少に向かうと見られますが、扶助費については、少子高齢化が進む中で、支出が増加すると予想されます。



特別会計・企業会計の決算状況

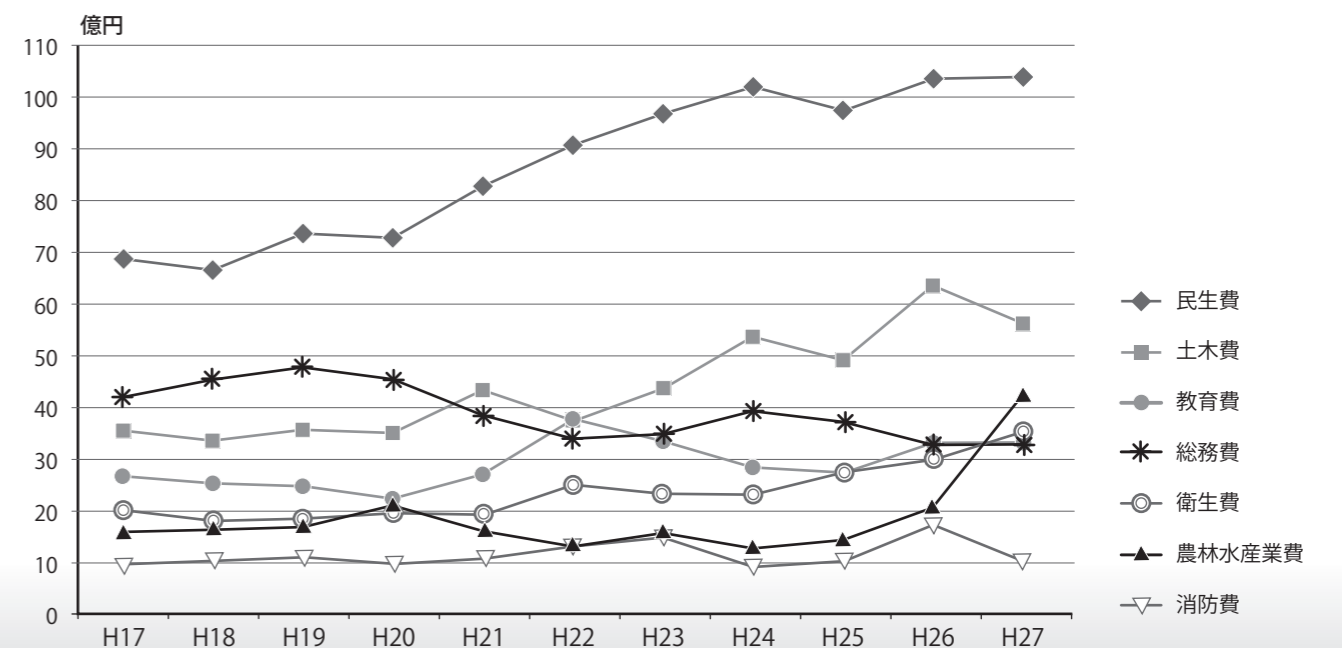
会計区分	収入済額	支出済額	会計	区分	決算額
国民健康保険特別会計	107億 2,852万円	105億 5,299万円	水道事業会計	収益的 収入	16億 8,525万円
介護保険特別会計	60億 3,922万円	59億 7,409万円		収益的 支出	16億 6,201万円
介護サービス特別会計	2,058万円	1,427万円		資本的 収入	8億 2,202万円
後期高齢者医療特別会計	12億 9,566万円	12億 9,450万円		資本的 支出	12億 8,167万円
公共下水道特別会計	28億 1,164万円	27億 893万円	春日居地区温泉給湯事業会計	収益的 収入	6,980万円
農業集落排水特別会計	4,817万円	4,338万円		収益的 支出	6,640万円
簡易水道特別会計	1,750万円	1,161万円		資本的 収入	0万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	5,152万円	391万円		資本的 支出	997万円
合計	210億 1,281万円	206億 368万円	資本的収入が支出に不足する額は補てん財源で措置しました。		

一般会計 歳出の内容



歳出の中で最も占める割合が大きかったものは、民生費の103億9,900万円で、歳出全体の約28%を占めています。民生費に該当する事業である、簡素な給付措置支給事業や私立・広域保育所運営事業(施設型給付事業)などにおいて、前年度より事業費の増額となっており、また、制度上で支出することが義務付けられていて削減が難しい経費があることから、民生費が高い割合を占める結果となっています。

次いで土木費が歳出の中で2番目に大きい割合となりましたが、前年度より7億3,200万円減少しています。石和温泉駅周辺整備事業などの大型事業が完了し、普通建設事業がピークを過ぎたことが減少の要因と考えられます。



財政の健全度を判断する指標を公表します

平成27年度決算に基づく算定の結果、全ての指標が「健全」の基準内となり、健全な財政運営が維持されていると判断できます。

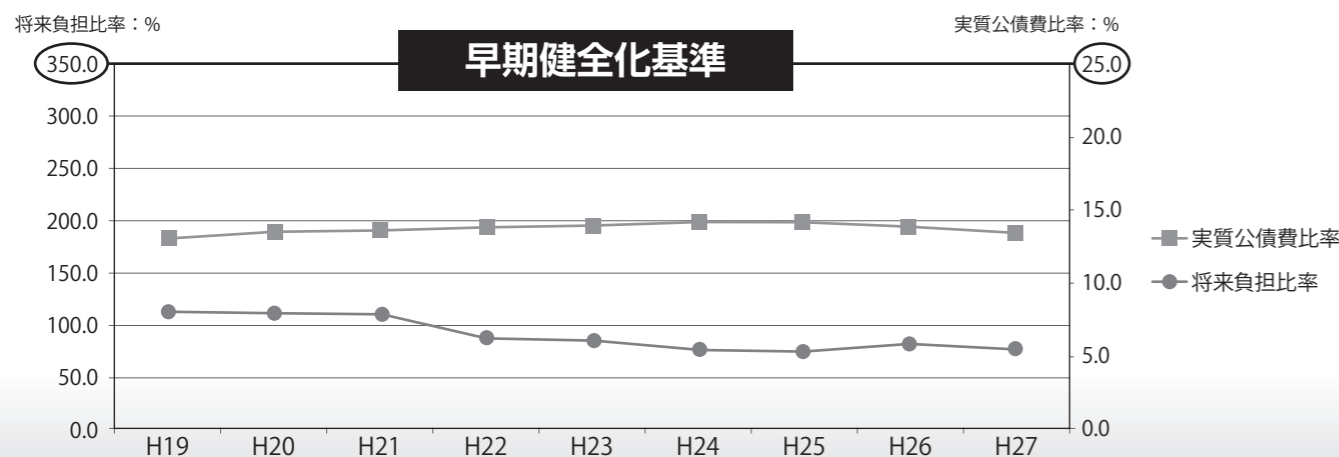
指標	比率の説明	早期健全化基準	算定結果(前年度)
健全化判断比率	①実質赤字比率	12.48%	— (—)
	②連結実質赤字比率	17.48%	— (—)
	③実質公債費比率	25.0%	13.4% (13.8%)
	④将来負担比率	350.0%	77.6% (81.5%)
	⑤資金不足比率	20.0%	— (—)

笛吹市では市債の返済金など、将来負担が見込まれる額が約688億円あり、そこから基金や公債費にかかる基準財政需要額、市町村振興資金元利補給金など、約562億円の財源を差し引いた残り約126億円が、市の将来負担額になります。これを市民1人当たりで換算すると約17万9千円の負担額となります。

財政指標の推移

財政健全化指標の公表が義務付けられた平成19年度以降の数値をグラフで表すと、将来負担比率は減少傾向、実質公債費比率は若干の増加傾向にあったものの、平成25年度をピークに2年連続で減少しました。笛吹市は返済金の一部または全部を国が支援してくれる合併特例債などの有利な市債を積極的に借り入れており、各指標とも早期健全化基準を大きく下回るとともに、昨年度より将来負担比率および実質公債費比率が減少していることから、健全な財政状態が保たれていることが判断できます。

今後も、適切な事業の選択に努め、基金の積立や市債残高を縮減することが、将来負担比率や実質公債費比率の減少につながります。



一般会計 基金(貯金)残高の状況

	平成26年度末	平成27年度末	増減額
財政調整基金	29億 883万円	38億 9,190万円	9億 8,307万円
減債基金	17億 8,756万円	17億 8,858万円	102万円
公共施設整備等基金	36億 4,823万円	35億 5,816万円	△9,007万円
地域振興基金	48億 7,934万円	48億 8,029万円	95万円
その他特定目的基金	21億 191万円	21億 9,943万円	9,752万円
合計	153億 2,587万円	163億 1,836万円	9億 9,249万円

基金というのは、家計で言うと預貯金のことです。決算剰余金が生じた場合などには、基金に積立を行います。雪害被害の復旧対応経費として、昨年度財政調整基金から取り崩していた分を、平成27年度で積み直しました。

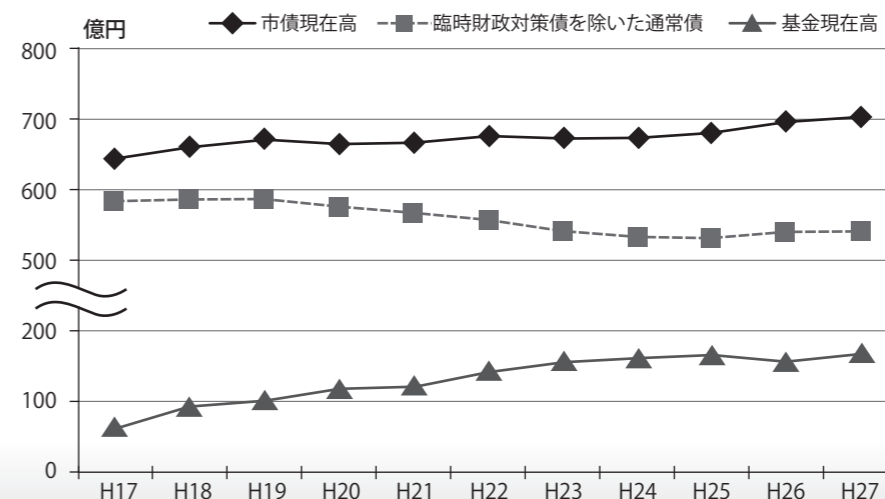
市債(借金)残高の状況

会計名	平成26年度末	平成27年度末	増減額
一般会計	421億 6,758万円	439億 1,593万円	17億 4,835万円
うち合併特例債	165億 6,350万円	191億 8,204万円	26億 1,854万円
うち臨時財政対策債	154億 3,910万円	159億 578万円	4億 6,668万円
公営企業会計	274億 4,744万円	263億 8,326万円	△10億 6,418万円
上水道・簡易水道	88億 871万円	88億 6,786万円	5,915万円
下水道	186億 3,873万円	175億 1,540万円	△11億 2,333万円
市債残高合計	696億 1,502万円	702億 9,919万円	6億 8,417万円
臨時財政対策債を除く市債残高 合計	541億 7,592万円	543億 9,341万円	2億 1,749万円

市債には、長く利用する施設を造る際、資金の借入をすることにより、後年度の償還を通じて将来その施設を利用する人にも、建設の費用を公平に負担していただくという、世代間の負担の公平性を保つ役割があります。平成27年度の現在高は702億9,919万円であり、4年連続で増加しました。

基金(貯金)と市債(借金)残高の推移

下のグラフから、基金と市債は増加傾向で推移しているのが分かります。



臨時財政対策債とは…?

国から地方公共団体へ分配する地方交付税が足りない場合に、不足分を地方公共団体で借金をしてまかなうための市債です。臨時財政対策債は、その元利償還金相当額が後年度の交付税に算入することとされています。

平成27年度実施事業

平成27年度にも多くの事業を実施しました。主な事業の内容について、一部を写真で紹介します。



次世代リーダー育成事業 笛吹市の将来を担うリーダーの育成を目的とし、地域で活躍している方を講師に招き、合宿形式の研修を行いました。市内5つの中学校から生徒が参加し、講義やディスカッションを通じて、知識を深めました。



小学校・中学校施設計画的改修事業 市内5校の小中学校体育館において、天井等落下防止のための改修を行いました。各学校施設は災害時に指定避難所となることから、災害時の児童、生徒や市民の安全を確保し、また、教育環境の充実を図ります。(写真:境川小学校)



リニアの見える丘整備事業

リニアの見える丘構想に基づき、八代ふるさと公園、花鳥の丘展望台周辺をリニア展望ビュースポットとして整備しました。展望台、公園、駐車場などの整備を行い、市内外からの観光客誘致につなげます。



農産物等消費拡大宣言事業（全国桃サミット）

全国桃サミットを開催し、全国の桃産地の関係者ら32団体約300人が笛吹市に集いました。サミットでは、販路拡大に向けた課題解決などに取り組むため、全国初の「全国桃産地協議会」を設立するとともに、「全国桃サミット宣言」を採択しました。



放課後児童健全育成事業

学童保育室において、放課後帰宅しても保護者が不在である児童を預かり、放課後児童支援員のもとで、適切な遊びや生活の場の提供を行いました。課外授業などの体験活動も行い、児童の健全育成を図ります。



富士河口湖笛吹フルーツライド

富士河口湖をめぐる138kmコースのサイクリングイベントが、約400人の参加のもと開催されました。県外から多くの方が参加され、ぶどうや富士山をはじめとした山梨の魅力、大いに堪能していました。